

二十一世紀の留学生教育に向けて

鐘 玉 秀*

留学生の教育は全世界の諸国でますますさかんになってきています。どのように留学生の教育を向上させるかということが、二十一世紀に入って、ますます重要な課題になりました。

新世紀になって、全世界の経済はさらに速やかに発展するとともに、各国の経済力が互いに影響しあい、互いに依存しあうために、各国間の交流が一層必要性を増したのです。留学生の人数も増加して、どのように留学生を教育するかということが、二十一世紀の大学教育の大切な問題のひとつになりました。留学生教育の発展の様相を観察することは、二十一世紀の留学生教育に深い意味を持っています。私はここで中国の留学生教育の歴史と現状、さらにはそのあるべき姿について若干の考察を加えてみようと思います。

一 留学生教育の四十年の歩み

私は1990年から1999年まで天津師範大学国際交流処の処長として、留学生の教育と管理を担当していましたので、天津師範大学の留学生教育を例として、中国の留学生教育の歩みをふりかえって見ます。

天津師範大学の留学生教育は1965年から始まりました。その時はベトナムからの留学生だけを受け入れました。それも国費の留学生だけでした。まもなく文化大革命のために留学生の受け入れは二十年くらい中断されました。改革開放の後、1985年から留学生の教育は再開されました。しかし、1990年までは国費の留学生を受け入れるのが主で、自費留学生の人数はわずかでした。1988年ごろから、自費の留学生がだんだん多くなってきたのです。中国の経済の発展にともなって世界の諸国との交流も拡大し、それとともに中国の留学生教育もさかんになりました。1992年には自費留学生は100人を超えました。それから毎年50人というスピードで増加してきました。また留学生の形もさまざまになりました。1年または2年の長期班が主ですが一ヶ月二ヶ月の短期班もあります。また一週間とか二週間とかの留学生もいました。出身国は日本、韓国、英国、米国、ロシア、オーストラリア、フランス、ドイツ、カナダなどで、多くは20歳から30歳までの若者たちです。

しかしながら、留学生の人数の増加にともなって、次のような変化も起きてきました。

1. 60歳以上の留学生が出てきました。この人たちはたいてい60歳で退職してから、自分の老後の生活を豊かにするために言語の勉強を始めたのです。その多くは日本からの留学生でした。60歳以上の留学生たちは言語を勉強しながら、中国の文化を満喫していました。また中国の改革開放以来の国情を調べて、個人の投資に役立てている人もいます。

* 天津師範大学

2. 中国で投資をする会社の社長、社員たちが中国語を勉強し始めました。ほとんど30代か40代の人たちでした。この人たちは特に熱心で授業以外の一切の時間を利用して、一生懸命に勉強していました。

3. 奥様のクラスが出てきました。この奥様たちはみなご主人と一緒に中国へ来たのです。ご主人はほとんど外資の会社の社長、あるいは社員たちです。奥様たちは中国で便利に生活できるように、大学の言語のクラスに通っています。

4. 10代の子供たちも父母に連れられて大学で勉強しています。中国語ができるようになったら、中国の高等学校や大学に入りたいと言っています。

5. 一年か二年言語を習ってから、学部や大学院に入って、中国の大学の卒業証明書をもらおうと考える留学生が年々増えてきました。

二十一世紀になって、留学生の人数は90年代の二倍から三倍になりました。留学生教育は正式に中国の大学教育の一環となりました。これからの留学生教育をどのように推進したらいいか、私たちがよく考えるべき重要な課題になりました。

二 留学生の教育の中心課題は、どのような教え方をしたらよいかということだと思います。

留学生の教育は大学の教育の特性をもっています。それだけではなく、教育の対象は母語の人たちではなくて、外国の人たちです。しかし、教育の目的は同じです。人材を養成することです。だから、教学を中心にしなければなりません。この目的を達成するために、次のことを必ず考えなければならないと思います。

1. 教学を中心にするためには各国の実際を考える必要があります。

一つは、留学生の母国の政治、経済、文化の影響です。留学生たちは、二十年、三十年、あるいは四十、五十、六十年もの間自分の母国で生活して、言語や社会の現象への発想、生活習慣などを身につけてきました。

もう一つは、国際間の政治、経済、文化交流要素の影響があります。留学生教育の目的は、国際型の複合的な人材を養成することですから、その実態は国際的な色彩でおおわれており、国際情勢の推移につれて変化します。留学生教育の構造、計画、教材、課目、教え方などはみな国際事情を反映します。ですから留学生の教育は国際的な教育だと言えます。

三つ目は、留学生を受け入れる国の政治、経済、文化の影響です。普通は留学生を受け入れる国では、自分が編集した教材、自分の国の大学の教育計画と教え方を採用しています。またその国の言葉で留学生を教えます。そのため留学生は対象国の教師の教材と教え方に慣れるために苦労しています。留学生を受け入れる国の教育がどのように留学生たちの国の教育と接するかということは、研究するべき重要な課題です。留学生の教育は必ず實際を重視しなければなりません。

2. 教学を中心にするためには、入学する留学生の質と数の関係をよく考えることが必要です。今、中国で留学生を大量に受け入れれば大きな収入になります。しかし、ただ儲

ける（お金が入る）ことを考えるのは留学生の人材養成に悪影響を与えます。

また留学生の素質を高めるために、教師たちは自身の知識、教えるための科学性と芸術性を高めなければなりません。留学生の教師としては留学生の規律（方法）を研究することが不可欠だと思います。

3. 大学の学部や大学院に入る留学生が増えるにしたがって、入学試験がますます重要になります。入学試験を厳しくしなければ、優秀な学生を選ぶことができません。その結果は養成された人材が、当代の科学技術が進んだ国際社会と経済に適応できないようなことも起こります。また、無能な卒業生は大学の名誉を汚すことにもなります。それゆえ、まずは入学試験を重視しなければならないのです。

三 留学生の再度の社会化ということが二十一世紀の留学生教育の重要な課題だと思います。

社会化とは人間が社会文化と行為の規範を習う過程です。社会の価値と目標を内化する過程です。また個人が知識、技能と規律を習い、社会で生活する資格を取得し、個人の社会性を発展させる過程です。人間は社会で生活します。そのために必ず社会化されます。社会化されることでその人の行為と発想が社会の要求にしたがうことができます。外国へ行った場合、母国でなされた社会化は新しい環境の要求に対応できないかもしれません。したがって、新しい社会に入ったら、必ずもう一回社会化されて、新しい社会に適応できるように個人を変えなければなりません。

外国に留学する人は、新しい生活の環境に慣れるために、積極的に力を尽くします。彼らの“もう一回（再）の社会化”は主動的に行われます。“再社会化”とは、つまり“郷に入れば郷にしたがう”という意味です。外国にいる間、自分が外国人であることを忘れて、留学した国の風俗と習慣にしたがって発想し、行動するべきです。“再社会化”の主な内容は、その国のことを了解し、その国の法律や習慣によって自分の行為を律することです。頭の中で考えると難しいことではないようですが、実に多くの留学生が具体的な問題に出会うと、やはり自分勝手に行動します。たとえばビザの期限が来ても延長の手続きをせず、後になって係の人に大きな迷惑をかけるといった例が多いのです。

外国語を上手に身につけるには、言葉だけではなくて、その国の伝統的な風俗と習慣にしたがって、動作や行為をすることが効果的です。例えばその国の結婚式、葬式、祝日、祭りというような行事の場合に、どのように行動するか、特定の場合の仕草はどうであるか、どんな時に何と言ったらいいか、どんな時に黙り、どんな時に相槌を打つかといったことは、それぞれの民族の特色になっており、それらを承知していれば、外国語らしい外国語が身につけているといえるでしょう。これは“再社会化”の内容の一つです。

留学生の“再社会化”は次のような形で行われるべきでしょう。

- ①講義を受けること。先生の講義を受けるのは目的を持って系統的な知識を獲得することです。教材や先生の講義は直接学生の“再社会化”に影響を与えるもので、それは学生たちが“再社会化”されるための主な道だと思います。
- ②テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマス・コミュニケーションは学生たちの“再社会

化”の重要な手段だと思います、また外国語を勉強するための最も有効な手段でもあります。

- ③留学生たちが留学先の人々と交流すれば、その国の風俗、習慣、発想、行動などがわかりますから、それを模倣することで、自然に“再社会化”が深まります。

中国には“入郷随俗”ということばがあります。「郷に入れば郷に従え」の意味です。つまり母国で二十年ぐらいの間に身につけてきた伝統的な概念を崩して新しい環境に深く入って、その国の習慣にしたがって、その国の人の発想に合わせて行動することが必要です。

例えば中国人の留学生が始めて日本に行って、日本の言語文化に触れた場合、分かり難い所がたくさんあります。例を挙げれば、中国の「你、您」は日本語の「あなた」の意味です。第二人称で、普通の場合は「你」と言い、丁寧な場合、「您」と言います。会話のなかでよく使われる語で、もし使わないと、主語が誰であるか明確でないことになります。英語なら「You」と言う一つの言葉ですみます。しかし日本語の場合はそうではなさそうです。「あなた、あんた、きみ、お前、お前さん……」といろいろあり、性別、年齢、地位、相互の関係などによって使い分けているようです。外国人によって、一瞬のうちにふさわしい人称代名詞を選びだすのはたいへんです。

また、日本では妻は夫に「あなた」と呼びかけますが、そのまま中国語に翻訳して「你」と言うのは、夫婦の間のよびかけにふさわしくないようです。

日本語には「間」と言う文字のあることばが多いです。「居間、世間、仲間、木の間、間柄」などです。「間」を重視する日本の文化を反映して、広範な意味があります。空間、チャンスのような抽象的な使い方がありますし、人間関係を表すこともあります。中国語では「間」は実意のある言葉で、時間、間隔などの具体的な使い方だけです。

中国人の留学生にとってこれらの言語文化がわからなければ、このような日本語の使い方はなかなか身につけることができません。

ヨーロッパの留学生たちは中国へ来て、夏になるとヨーロッパ人の習慣によって女性はキャンパスの芝生に寝て日にあたります。このやり方は東洋人には受け入れにくいです。これは東西の世界の道德観念の違いです。「郷に入れば郷に従え」とは中国語での「再社会化」の過程です。外国に行ったら母国で身につけた社会に対する姿勢を、道德や習慣を変えなければなりません。日本語らしい日本語、また中国語らしい中国語を身につけるために、みずからすすんでその言語文化集団の行為と言語方式を受け入れなければなりません。

留学生の“再社会化”という問題を研究するのは留学生の教育、留学生の管理の重要な部分だと思います。二十一世紀になって世界各国の文化の交流はますます深くなっていくでしょう。政治、経済、文化の交流につれて、留学生も確実に増えていきます。二十一世紀の留学生教育をどのように推し進めたらよいか、深く考えるべきだと思っています。